



グランドプリンス高輪

News Letter No.11

第9回 日本シニア小児科医連盟 総会・講演会

現地開催のお知らせ

2023年4月14日(金)17:30~21:00

第9回日本シニア小児科医連盟総会・講演会開催にあたり
会長:順天堂大学 名誉教授 新島 新一



内容

1. 第9回大会開催にあたり

順天堂大学 名誉教授
新島 新一

2. 代表幹事挨拶

東京慈恵会医科大学
名誉教授 衛藤 義勝

3. 抄録

長野県立こども病院 院長
中村 友彦

順天堂大学 名誉教授
新島 新一

4. 幹事名簿

第9回日本シニア小児科医連盟総会・講演会の世話人を務めさせていただきます順天堂大学大学院医学研究科の新島新一です。本年開催されます第126回日本小児科学会学術集会(2023. 4.14-16)を順天堂大学大学院医学研究科小児思春期発達・病態学の清水俊明教授が東京(グランドプリンスホテル新高輪)で開催されることから、本会の代表世話人である東京慈恵会医科大学名誉教授の衛藤義勝先生より東京での本会開催を依頼されました。今年の日本小児科学会のテーマは『Globalな視点で子どもたちの未来を考える』です。永い間、世界中の赤ちゃんやそのご家族の幸せを第一に考え、新生児医療に寄与されていた本会の幹事のお一人でもあり、第5回の講演をされた仁志田博司先生が昨年お亡くなりになりました。先生のご冥福をお祈りし、現在日本の周産期・新生児学会および新生児医療のリーダーでいらっしゃる長野県立こども病院・院長の中村友彦先生に日本の新生児医療が目指す今後の課題と展望について御講演をいただく予定です。

近年子どもたちの発達に関する問題が大きくクローズアップされています。子どもの発達は身体だけでなく脳や心の発達も重要です。そこで私は『子どもの発達を多領域から診る』をテーマにお話しさせていただきます。COVID-19の影響も少し緩和され、再び皆様と直接お会いして、活発な議論、楽しい親睦を深める会にしたいと考えております。

2023年4月14日(金)17時30分から学会場からも近い、品川駅直結の東京カンファレンスセンター・品川(アレア品川3階)にて、皆様のご参加 お待ちしております。

第9回 日本シニア小児科医連盟 総会 & 学術会議

事務局幹事 衛藤義勝

ご挨拶

第126回日本小児科学会(会頭 清水 俊明教授(順天堂大学大学院医学研究科小児思春期発達・病態学)が2023年4月14日(金)～4月16日(日)にグランドプリンスホテル新高輪で開催されるのに合わせ、4月14日(金)に第9回日本シニア小児科医連盟総会・講演会は順天堂大学名誉教授新島新一先生が東京カンファレンスセンター・品川(アレア品川3階)で開催されます。

皆様宜しくご参加のほどお願い致します。

今回のご講演は中村 友彦先生(長野県立こども病院 病院長)並びに新島 新一先生にご講演を頂きます。

最後に、この日本シニア小児科医連盟会議を通じて、少しでも我が国の子どもたちの福祉、健康の増進並びに母子保健の向上に貢献できれば幸いです。

多くの皆さまのご参加をお願い致します。

第1回から8回までの世話人・ご講演演者

第1回 世話人 衛藤 義勝
講演: 安次嶺 馨、山城 雄一郎

第5回 世話人 松石 豊次郎
講演: 松石 豊次郎、仁志田 博司

第2回 世話人 清野 佳紀
講演: 清野 佳紀、中畑 龍俊

第6回 世話人 小泉 晶一
講演: 小泉 晶一、横谷 進

第3回 世話人 山城 雄一郎
講演: 山城 雄一郎、吉岡 章

第7回 世話人 伊藤 進
講演: 伊藤 進、衛藤 義勝

第4回 世話人 児玉 浩子
講演: 児玉 浩子、藤村 正哲

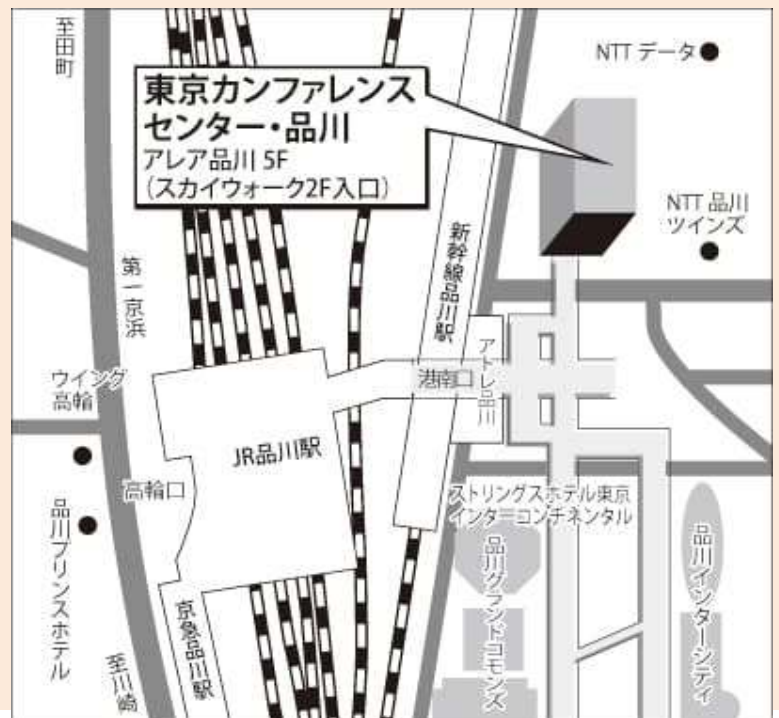
第8回 世話人 鈴木 順造
講演: 松平 隆光、西 美和



今回は現地開催となります
【日時】
2023年4月14日(金)
17:30~21:00
(第125回日本小児科学会第1日目)

会場:東京カンファレンスセンター・
品川(アレア品川3階)
右 地図参照 品川駅歩道橋
で徒歩2分

会費:1万円(意見交換会費用含む)



◆プログラム◆

17:30~18:00 総会

18:00~19:00 講演会

司会 鈴木 悟先生(名古屋市立大学西部医療センター名誉院長)

講演1.日本の新生児医療が目指す道~仁志田博司先生を偲んで
~長野県立こども病院院長 中村友彦先生

司会 大澤 眞木子先生(東京女子医科大学名誉教授)

講演2.子どもの発達を多領域から診る

~順天堂大学・大学院医学研究科名誉教授 新島新一先生

19:00-21:00

意見交換会

会場:東京カンファレンスセンター・品川(アレア品川3階)

3. 第9回シニア小児科医連盟 講演抄録

講演1. 日本の新生児医療が目指す道～仁志田博司先生を偲んで ～長野県立こども病院院長 中村友彦

私は1984年の卒業で、その年に東京女子医大に母子総合医療センターが開設されました。当時の学会では女子医大の超低出生体重児(超未熟児と呼ばれていました)の管理・成績発表のある会場は溢れるばかりの人で、特に仁志田博司先生の人間味溢れるコメントに興奮と羨望を感じました。女子医大の超低出生体重児管理法が全国に普及して、日本の新生児死亡率は世界で最も低くなりました。長野県立こども病院は1993年の開院で、後に埼玉医科大学総合医療センターの教授になられた田村正徳先生に率いられて新生児科はスタートしました。現在は、特に妊娠22～23週の超早産児の予後が世界的にも優れており、その管理法について世界各地から医師と看護師の研修希望があります。

短期予後が頂点に達した日本の新生児医療の次の課題は長期予後の改善です。そのKey wordは「Family Centered Care:FCC」だと思います。私達はFinlandのTurku大学が開発したFCCのための「Close Collaboration with Parents Training Program」の普及を計画しています。FCCは新生児医療だけでなく小児医療全体のテーマだと思います。病気が治癒して退院しても家族に受け入れられなければ「こどもの心と体」は癒やされません。

私達は、冬の信州白馬・大町で医師・看護師・企業関係者約1,000名が参加する「新生児呼吸療法モニタリングフォーラム」を20年以上開催してきました。その懇親会の最後は仁志田博司先生の三本締めが恒例で、先生曰く「三本締めは三つの願い」を込めて締めるのだそうです。先生の三本目はいつも「今年世界で生まれてくる赤ちゃんとその家族の幸せ」を祈って締められました。これからの日本の新生児医療は、仁志田博司先生の思いを引き継ぎ「世界の赤ちゃんとその家族の幸せ」を願い世界をリードしていくと思います。

講演2. 子どもの発達を多領域から診る

順天堂大学・大学院医学研究科名誉教授 新島新一

【子どもの発達と新生児医療】

新生児(特に早期産児)の脳は脆弱で、その時期の低血圧、低酸素、高酸素などが脳室周囲白質軟化症など障害を引き起こし、その後の脳性麻痺や発達障害に繋がる。近年の新生児医療は救命からintact survivalへと進化し、brain cooling やStem cell 治療へと変貌しつつある。

【子どもの発達と内分泌】

胎児が妊娠中に長期間にわたり甲状腺ホルモン値の低い状態に曝されると、神経および行動発達の遅延などの不可逆的な脳障害が生じる。WHOでは妊娠中および授乳中の女性に対して、甲状腺機能と胎児の発育を保持するように勧告している。小児期の成長ホルモン(GH)分泌は出生後1年間と第二次性徴期(女児11歳、男児13歳)に分泌が盛んになる。その時期には睡眠が深くなり身長が伸びる。GH分泌不全の子供達は、睡眠も浅く、熟睡できないために、低身長・肥満・鬱症状となる事が明らかとなってきた。従ってGH投与は、低身長の改善だけでなく、肥満、睡眠深度、鬱状態の改善が認められる。

思春期の初来はGABA濃度が低下することにより起こる。GABA濃度の低下は、思春期の子供がいらいや異常行動、痙攣性疾患が思春期に増悪する事とも関連する。女性はestrogenの分泌が増える12歳過ぎに初潮を迎える。Estrogenは痙攣の閾値を低下させるため、生理直前(～生理中)は痙攣の増悪が時折認められる(catamenial exacerbation)。閉経の頃になるとestrogen作用の低下によりアルツハイマー病や認知機能障害の進展が加速する。小さい頃からestrogen分泌が悪いTurner症候群に骨端が閉鎖しない程度の極少量のestrogenを補充すると空間認知や計算能力等が改善する。

【子どもの発達と微量元素】

鉄の次に多い亜鉛は300以上の生体内の酵素に関係し、その欠乏により成長障害、味覚障害、臭覚障害、貧血、創傷治癒の遅延、易感染性、皮膚炎・脱毛などを引き起こす。血清亜鉛値を評価することは、発達期の子どもにとって重要なマーカーとなる。

【子どもの発達と消化器】

近年、腸内細菌叢が精神状態に大きな影響を及ぼしていることが明らかになりつつある。カナダでの研究では無菌のネズミの腸に他のマウスの腸から取った微生物を植え付けると、ドナーの性格まで受け継ぐことが実証された。人の不安や鬱病、自閉症の治療に腸内細菌が応用される日も、もうすぐかもしれない。

【子どもの発達とアレルギー】

現在、スギ花粉症を含むアレルギー性鼻炎は国民の40%以上が罹患していると考えられ、今後も増加することが予想される。予防や治療として使用される抗ヒスタミン剤・抗アレルギー剤にはヒスタミン受容体の占拠率が高く、小児に対して眠気を引き起こし成績が下がる薬もある。発達期の小児には脳に移行しづらい安全な薬の選択が望まれる。

事務局からのお願い：

今般第9回日本シニア小児科医連盟総会・講演会は順天堂大学名誉教授新島新一先生が会長で東京カンファレンスセンター・品川（アレア品川3階）で令和5年4月14日（金）午後5：30から開催されます。是非皆様方のご参加をお待ちします。尚皆様のお知り合いのシニア小児科医の本連盟へのご入会をご紹介ください。宜しくお願いします。久しぶりに対面での会となります。

日本シニア小児科医連盟ホームページをご参照ください。

日本シニア小児科医連盟

HOME

組 織

内 規

活 動

ニュースレター

事務局

日本の小児医療への貢献と
未来へ続く健康で輝く日々のために

Quality of Life



衛藤 義勝	(財)脳神経疾患研究所先端医療センター 東京慈恵会医科大学名誉教授
青木 継稔	東邦大学 名誉学長 名誉教授
浅見 直	福祉法人長岡療育園
朝山 光太郎	東京家政学院大学健康栄養学講座
安次嶺 馨	沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団
阿部 敏明	あしかがの森足利病院
雨宮 伸	埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷
荒川 浩一	群馬大学大学院医学系研究科
有阪 治	那須赤十字病院
飯沼 一字	認定NPO法人 子どもの村東北
石川 豊	下関市医師会副会長・石川ファミリークリニック
泉 達郎	大分大学名誉教授 国立七尾病院
市川 家國	信州大学
伊藤 三吾	篠原病院
伊藤 進	香川大学医学部小児科学講座
井上 謙吉	医療法人 日吉いのうえ小児科
猪股 弘明	いのまたこどもクリニック
伊予田 邦昭	福山市こども発達支援センター
岩田 力	東京家政大学
上田 一博	医療法人三生会 みちがみ病院
植田 浩司	
植地 正文	東京福祉大学社会福祉学部
内山 聖	新潟大学 名誉教授
衛藤 隆	東京大学名誉教授・恵比寿こどもクリニック
江原 伯陽	赤ちゃん成育ネットワーク事務局エバラこどもクリニック
遠藤 文夫	くまもと江津湖療育医療センター
大澤 眞木子	東京女子医科大学名誉教授
大関 武彦	浜松医科大学 名誉教授
太田 孝男	琉球大学大学院医学研究科育成医学講座
大野 耕策	独立行政法人労働者健康福祉機構 山陰労災病院
岡田 知雄	神奈川工科大学応用バイオ科学研究部栄養科学生命科学科
岡田 真人	聖隷福祉事業団 法人本部
小川 實	小川クリニック
小田 慈	岡山大学名誉教授 新見公立大学副学長
加我 牧子	東京都立東部療育センター
門田 正担	春野うららかクリニック
金子 隆	すずき小児科
河 敬世	大阪府立母子保健総合医療センター
衣笠 昭彦	京都府立医科大学地域保健福祉行政システム学
熊谷 公明	横浜総合病院 小児科
黒川 徹	誠愛リハビリテーション病院
桑原 正彦	桑原医院
小池 健一	JA長野厚生連 南長野医療センター篠ノ井総合病院
小泉 晶一	小泉クリニック
神津 玲子	神津小児科医院
河野 斉	福岡徳洲会病院
河野 陽一	地方独立行政法人 東金九十九里地域医療センター 理事長
児玉 浩子	帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科
小宮山 淳	松本秀峰中等教育学校

近藤 直美	平成医療短期大学
七種 啓行	さいくさ小児科
齋藤 加代子	東京女子医科大学
坂口 祐助	坂口こどもクリニック
佐々木 望	埼玉医科大学 かわごえクリニック
重松 陽介	福井大学小児科
城 宏輔	すずき小児科
白幡 聰	北九州八幡東病院
新宅 治夫	大阪市立大学大学院医学研究科「障がい医学・再生医学寄附講座」
杉江 秀夫	常葉大学 浜松キャンパス 保健医療学部
鈴木 順造	(公財) 福島県保健衛生協会 / 福島県立医科大学名誉教授
星加 明德	北新宿ガーデンクリニック
清野 佳紀	大阪病院
関口 茂	せきぐちクリニック
高嶋 幸男	国際医療福祉大学大学院教授 福岡/大川キャンパス
高田 五郎	仙台オープン病院
高橋 弘昭	千葉市療育センター
高橋 幸博	東大寺福祉療育病院院長
高柳 正樹	帝京平成大学健康医療スポーツ学部
武谷 茂	久留米大学
立花 克彦	神奈川県赤十字血液センター
田中 敏章	田中成長クリニック
谷澤 隆邦	たにざわこどもクリニック
田原 卓浩	医療法人社団たはらクリニック
玉置 知子	兵庫医大遺伝
長 秀男	川崎市南部地域療育センター
土屋 滋	東北文化学園大学
津留 徳	つるのぼるクリニック小児科
寺崎 智行	吉備国際大学看護学科
戸苅 創	名古屋市立西部医療センター 新生児 医療センター
富和 清隆	東大寺福祉療育病院
富田 和巳	こども心身医療研究所
永井 利三郎	桃山学院教育大学教育学部(元大阪大学医学部)
中畑 龍俊	京都大学iPS細胞研究所
中村 肇	社会福祉法人 芳友
中村 安秀	甲南女子大学
新島 新一	順天堂大学名誉教授
西 美和	広島赤十字原爆病院小児科
布井 博幸	愛泉会 日南病院
橋本 清	日本医科大学 名誉教授
濱岡 建城	宇治徳洲会病院 小児循環器・川崎病センター
浜崎 雄平	佐賀整肢学園こども発達医療センター
早坂 清	
原 光彦	和洋女子大学 家政学部 健康栄養学科
廣津 卓夫	ひろつ小児科
福嶋 義光	信州大学医学部遺伝医学教室 信州大学医学部付属病院 遺伝子医療研究センター
福永 慶隆	日本医科大学

藤村 正哲	大阪母子医療センター
船戸 正久	大阪発達総合療育センター
古川 漸	実践女子大学保健センター
平家 俊男	兵庫県立兵庫総合医療センター
別所 文雄	日本医療科学大学保健医療学部
保科 清	山王病院小児科
細谷 亮太	聖路加国際病院
堀内 勁	聖マリアンナ医科大学 名誉教授
松石 豊次郎	聖マリア病院 小児総合医療センターレット症候群研究センター
松尾 雅文	神戸学院大学 総合リハビリテーション学科
松平 隆光	日本小児科医会
眞弓 光文	福井大学
丸山 健一	群馬県立小児医療センター
水谷 修紀	東京医科歯科大学/川崎市北部地域療育センター
南 武嗣	みなみクリニック
宮田 晃一郎	重症障害施設オレンジ学園
麦島 秀雄	川越予防医療センター・クリニック
村上 睦美	東京都予防医学協会 保健会館クリニック
村田 光範	和洋女子大学保健センター
森川 昭廣	社会福祉法人希望の家 北関東アレルギー研究所
山口 洋一郎	やまぐち小児科
山城 雄一郎	順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座
山野 恒一	四天王寺和らぎ苑
山本 正士	社会福祉法人慈愛会医療福祉センター聖ヨゼフ園
山本 仁	聖マリアンナ医科大学小児科
横田 俊平	フジ虎ノ門こどもセンター
横谷 進	福島県立医科大学 甲状腺・内分泌センター
横山 隆	医療法人 横山小児科医院 シルバー人材
吉岡 章	奈良県立医科大学
芳野 信	久留米大学高次脳疾患研究所
脇口 宏	高知地域医療支援センター
井田 博幸	東京慈恵会医科大学 医学部
大橋 十也	東京慈恵会医科大学 看護学科 健康科学疾病治療学
奥山 虎之	埼玉医科大学 医学部
廣瀬 伸一	福岡大学医学部 総合医学研究センター
山形 崇倫	自治医科大学 小児科

新しい会員をご紹介します

どなたかいらっしゃいましたら下記アドレスにメールを頂けたら幸いです。
どうぞよろしくお願いいたします。

yosh@sepia.ocn.ne.jp 代表幹事 衛藤義勝

2023年度新幹事候補のお知らせ

中村友彦先生(元信州大学教授)

長野県立こども病院院長

tomohiko-nakamura@nkodomo-hsp.jp

田角勝先生(元昭和大学教授)

たつのシティタワークリニック

tatsunom@icloud.com

宮島祐先生(元東京医科大学教授)

東京家政大学 子ども学部こども支援学科教授

miyajima-t@tokyo-kasei.ac.jp

杉原茂孝先生(元東京女子医科大学教授)

東京女子医科大学名誉教授

sugihara.h.shigetaka@gmail.com

根津敦夫先生(横浜市立大学)

横浜医療福祉センター港南センター長

at-nezu@10ai-konan.jp

大日方薫先生(元順天堂大学浦安病院教授)

順天堂大学客員教授

kobinata@juntendo.ac.jp

鈴木悟先生(元名古屋市立大学臨床教授)

名古屋市立大学西部医療センター名誉院長

s.suzu@mitaki.or.jp

位田忍先生(大阪府立母子医療センター前副院長)

大阪府移行期医療支援センター長

idas@wch.opho.jp

武田英二先生(徳島大学名誉教授)

健祥会学園専門学校校長

小林 正夫先生(前広島大学小児科教授)

石井 栄一先生(前愛媛大学小児科教授)

2023年度新幹事候補のお知らせ

伊藤 悦朗先生(前弘前大学小児科教授)

野々山恵章先生(前防衛医科大学小児科教授)

杉田 完爾先生(前山梨大学小児科教授)

小島 勢二先生(前名古屋大学小児科教授)